

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年2月19日

【評価実施概要】

事業所番号	4072500285		
法人名	日本医療サービス株式会社		
事業所名	グループホーム 大川		
所在地 (電話番号)	福岡県大川市大字榎津 160番地 1 (電話) 0944 - 89 - 5661		
評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡市博多区半道橋 2 - 2 - 51		
訪問調査日	平成20年1月22日	評価確定日	平成20年3月3日

【情報提供票より】(19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年8月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤15人 非常勤4人 常勤換算	6.4人

(2) 建物概要

建物形態	併設	改築
建物構造	鉄骨造り	
	6 階建ての	3 階 ~ 4 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	120,000円	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	210 円	昼食	315 円
	夕食	315 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	8 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88.7 歳	最低	77 歳	最高	102 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 高邦会 有明クリニック 高木病院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは町の中心部の大通りに面したビルの3階、4階にあり1階はデイサービスセンター、2階はクリニックとなっている。母体の病院が在宅医療に着眼し在宅の高齢者に支援していこうとの思いで設立された2階のクリニックと医療連携をとり利用者の医療的支援を行なっている。このホームに入るとほのぼのとした玄関、利用者の手作りの手芸品が飾られ暖かい雰囲気が醸し出されている。また、掃除も行き届き気持ちよく過ごすことができる空間がある。このホームで生活している利用者は穏やかな表情をしており、日々安心して過ごしている様子が窺える。

重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善点は、ホーム全体で話し合いを持ちできるところから取り組みを行った。運営理念の啓発に関しては運営推進会議や市が行っているデイサービス事業にてホームの存在や在りかたを知ってもらおうと努力している。また、介護教室の開催や広報誌の発行を行っている。それにより以前より地域との交流も増えてきている。利用者の把握は気づきアセスメントを独自に作成、記録しチームケアに反映させている。ホーム内の整理整頓の強化により注意のいる物品への点検も定期的に行い、利用者への安全な生活を提供している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>各ユニットにて全職員で話し合い項目毎にできているかいないか確認することができた。外部評価の意義も理解しており全職員の意識の向上とサービスの質の向上に繋がっている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>2ヶ月に1回定期的に開催しており出席者は地域の代表者、利用者、家族の代表者、市の担当者や法人関係者等からなっている。会議の内容としては、ホームの状況報告を行なったり出席者全員で防災訓練を行い協力体制の確保と確認等に役立てている。時には食事会等も企画し懇親を図っている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法、運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>入所前から信頼関係の構築に努め職員に何でも言える雰囲気、環境を作っている。面会時には必ず近況報告を行い、不定期ではあるが書面にて利用者の個々の報告を行っている。家族会はまだまだできていないが今後の課題として捉えている。今後、家族会を作り家族との懇親を図り家族が今まで以上に安心でき、家族の声をより多く反映できることを希望する。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>市との協賛による夏祭りの実施や運営推進会議に地域の代表者の出席はあるが、地域からのボランティアや来訪者は少ない状況である。自治会へは未加入で、地域の情報収集が希薄である。今後、地域の一員として地域の活動等の参加や地域のボランティアの受け入れ等にてホームと地域が連携しホームの強みをより一層引き出していくことを期待する。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくっている	開設当初より法人全体の理念と基本方針があり 住み慣れた地域でその人らしく生活できるよう支援するとの意味の理念に沿いホーム全体で取り組みをしている。今後、ホーム独自の理念を作り上げていくことを検討している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に掲示しいつでも確認できるようにしている。会議等で管理者は職員に伝え、全員で共有している。日々の業務の中で理念を念頭に置きケアを行っている。		
2.地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	市との協賛による夏祭り等の参加や市が開催しているデイサービス事業に参加し在宅の高齢者とのふれあいの機会はあるが、自治会等の加入はまだしていない状況である。そのため、地域の活動の参加ははしておらず、交流の機会が少ない。		市を単位とした活動は活発にしており ホームとしての役割は充分果たしているが、最も身近な自治会の加入や、地域の民生委員との交流が少なく、地域の活動の場も少ない。地域と密着したホームとなる為に民生委員や地域の住民との関わりを増やし、地域の活動に参加されることを希望する。
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各ユニットで職員も含め話し合いを行い、自己評価の項目毎に出来ていること、できていないことがよく理解できた。ホームを客観的な視点で見ることで、今後の取り組みが明確になった。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に開催している。出席者は、利用者、家族の代表者、地域の代表者、市の担当者、法人関係者等である。内容はホームの状況や利用者の状態の報告は勿論であるが、運営推進会議を利用し防災訓練の説明をしたり、食事会を企画し、工夫しホームと関係者の連携に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要時には必ず担当者や連絡を取り、相談等しやすい関係を構築している。情報交換もスムーズにできており、ホームのサービスの質の向上に繋げている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人内で1年に1回研修を行っており、ホームからも出席し、伝達もしている。パンフレットの準備はしており、必要な利用者、家族への説明も行っている。		
4.理念を实践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らし方や健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時に利用者の近況報告をし必要に応じ電話連絡を行っている。不定期ではあるが、書面にての報告と通信等も渡している。金銭に関しては、預かりが必要な利用者の分は金銭出納帳と領収証とを家族に提示し印鑑を頂き確認をしてもらっている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者、職員に家族が意見や苦情を訴えやすい環境を作り、要望等いつでも聞き取っている。公的な相談受付窓口等は契約時に契約書に明示し確認してもらっている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在異動は比較的少ない。利用者毎の担当制は取っているが、全職員が全利用者の把握をしており、異動や退職の場合は、他の職員が情報を引き継ぎその後新職員に引継ぎを行っている。利用者へは状態に応じ伝えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>法人人事担当課が中心となって人事を決めている。特に条件等は設けておらず、幅広い年齢層での採用となっている。職員は日々の業務の中で、自分の特技や趣味を活用し他の職員とのコミュニケーションを図っている。</p>		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>外部の研修にホームから代表者が参加し、その後伝達研修を行っている。管理者は日々のミーティング等にて利用者の個々を見ることや人格の尊重等職員に伝えている。</p>		
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人全体の研修が定期的に行われており、全職員は其々出席している。主な研修は新人研修とフォローアップ研修(認知症・緊急対応・身体拘束等)があり段階に応じた勉強する機会がある。外部の研修はホームから代表者が出席している。</p>		
14	22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他の事業所との管理者同士の交流の機会はあるが、ホーム同士の交流の場は無く、職員同士の交流等も無い状況である。現在、大川市のグループホームの交流会等の検討がなされており、管理者は立ち上げに協力している。</p>		<p>大川市のグループホームの交流会が検討されているが、近隣のグループホームの情報を収集し、他のホームを見学したり訪問してもらうを試み、情報交換の機会を作ることでホームの強みの確認や更なる質の向上に繋がるのではないだろうか。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入所前に、利用者、家族の見学とホームからの訪問を必要に応じ繰り返し、本人と顔見知りになるようしている。現在体験利用はないが、希望者には利用できるよう体制を整えている。</p>		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者は人生の先輩であることを大前提とし、職員は暮らしの知恵等を教えてもらい姿勢を持ち、利用者と一緒に日々の生活を共に送っている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人の意向や希望を聞き取り、本人のペースに合わせている。定期的なアセスメントも参考にしている。把握の困難な利用者に関しては、職員等からの言葉かけに対しての反応を確認したり、家族から情報を収集している。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>アセスメントを参考にし、担当者会議に家族もできる限り参加してもらい、課題や希望に組み込み計画を立てている。また、面会時に家族と話し合い確認し計画作成に反映させている。</p>		
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>本人の状態の把握を常に行い、モニタリングを細かく記録することで状態の変化や要望の気づきが即座にできる。日常の会話や態度で利用者の変化を察知し現状に合わせて計画を立てている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が家族と共に過ごせる環境をつくり、家族が宿泊できるスペースを確保している。また、理美容室や病院受診を職員が付き添い、利用者の行き付けと入所前の暮らしの継続ができるよう支援している。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら適切な医療を受けられるように支援している	入所以前の主治医の希望があれば、その主治医と連携を取っている。家族の受診付き添いの協力もあり情報交換している。本人、家族の希望があれば、協力医に変更の場合もある。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの指針を必要に応じ家族へ説明している。ホームは、最期をできる限り支援、対応していくことは全員共有している。ターミナル期の利用者があれば、必要に応じて協力医はホーム内に待機する等の柔軟な対応をしている。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人の思いを理解しようとする姿勢を持ち、個々を大切にされた対応をしており言葉かけや対応が柔らかである。スタッフルームは誰でも出入りできるが個人記録と利用者の情報が目に付くところにある。		利用者への配慮は十分なされ、和やかな日々が送られていることが窺い知れる。個人記録や情報が目に付くところにある為、個人情報の保護から書庫に保管すると共に情報は目に付かない場所に移動されることを希望する。
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日ごろの会話や表情を汲み取り可能な限り本人の希望に沿えるよう支援している。その日の職員と利用者の会話の流れで行動することもある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の能力に応じ調理の下ごしらえや味付け等職員と一緒にやっている。後片付けも役割があり楽しんでやっている様子である。食事時間中は静かな雰囲気の中でゆっくりと食事を楽しんでいる。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には曜日や時間の設定は無い。現在は午後からの入浴希望者が多く、時間や順番を利用者と一緒に決めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の能力に応じ役割があり洗濯物たたみ、食事の後片付け、調理の下ごしらえ等楽しんでいる。また、行事を多く取り入れ気晴らしの支援を行っている。その行事の際にも司会が得意な利用者に司会進行をしてもらっている。引きこもりがちな利用者には、昔の趣味を取り入れ活性化を図っている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、散歩は頻繁に行っている。また、個人の要望により、外出支援を行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず、職員の見守りにて支援している。居室の施錠は本人の希望で中から施錠する利用者もいるが、緊急の場合は外から開錠できるようになっている。緊急時の玄関の施錠については、事前に家族の了解を得ている。利用者の状態によっては一時的に施錠することもあるが、鍵をかけないケアができるよう取り組んでいる。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	1年に2回防災・避難訓練を消防本部共同のもとに実施している。訓練にはビル内施設(デイサービス・グループホーム・高齢者住宅・事務室)の全スタッフが参加している。入所者や利用者にも可能な限り参加してもらうようにし、夜間想定訓練の実施やマニュアルも準備している。しかし、近隣の住民や商店等には訓練の実施を伝えていないに留まっている。		運営推進会議にて防災訓練の説明を行っているが、実際の訓練への地域住民の参加が無い。スタッフだけの誘導には限界があることを認識し、日頃よりの地域住民との協力体制の話し合いおよび訓練、避難時の申し合わせ等を行うと、実際の災害時に備えることができると思われる。また、非常持ち出し袋も検討されることを希望する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	給食委員会があり 法人内の栄養士と共に話し合い、管理を行っている。食事チェック表の記録を確実にを行い、摂取量を確認すると共に必要な利用者には水分摂取のチェックを行っている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には木の温もりのある表札があり表情がほころぶ飾りつけがされている。リビングや食堂、台所も整理整頓され、気持ちよく過ごせる環境である。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所以前に使用していた家具や小物が配置され、個人の過ごしやすい環境となっている。部屋にトイレや洗面台の設置もあり換気にも工夫がされている。		